

資料 1

樽建推第 33 号

令和3年7月28日

北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会

会長 迫 俊哉 様

小樽市長 迫 俊哉

北海道新幹線新小樽（仮称）駅のデザインコンセプトの検討について（依頼）

本年5月6日に、鉄道・運輸機構から本市に対して、新小樽（仮称）駅を地域と協働して作り上げるため、駅デザインの骨幹を成すデザインコンセプトの作成依頼がありました。

デザインコンセプトの作成に当たりましては、多様な意見を取り入れたいと考えておりますので、貴協議会において、「北海道新幹線新小樽（仮称）駅周辺まちづくり計画」（平成29年3月策定）に掲げる「駅舎のデザイン方針」（別紙参照）に基づき、デザインコンセプトを御検討いただきますようお願いいたします。

小樽市建設部新幹線・まちづくり推進室
担当：品川、楯
電話：0134-32-4111（内線 7275）

第4章 整備計画

② 駅舎デザインの方針

●まちづくり方針

- 1 調和のとれた土地利用の形成・観光との連携
- 2 交通ネットワークの形成
- 3 地域環境を生かした街並み・景観等の形成
- 4 交通結節点における機能・施設の導入

●駅舎の景観形成

- ・駅の立地環境や周辺の自然豊かな景観と調和した駅舎デザインを検討。

●ワークショップでの意見

- ・展望台をつくるなど、駅から海が見えるようにならないか
- ・木造の道の駅のように親しみやすい建物がよい
- ・自然になじむように駅舎の色を設定すべき

●小樽市景観計画

●小樽の顔づくりの要素

【デザイン方針】

歴史
・文化

○歴史的蓄積を持つ小樽の象徴として風格、懐かしさが感じられる空間

自然
・都市

○多様な人々を迎え、期待感を高める玄関口として明るさ、開放感が感じられる空間
 ○自然豊かな周辺環境と調和した、落ち着いたある快適な空間

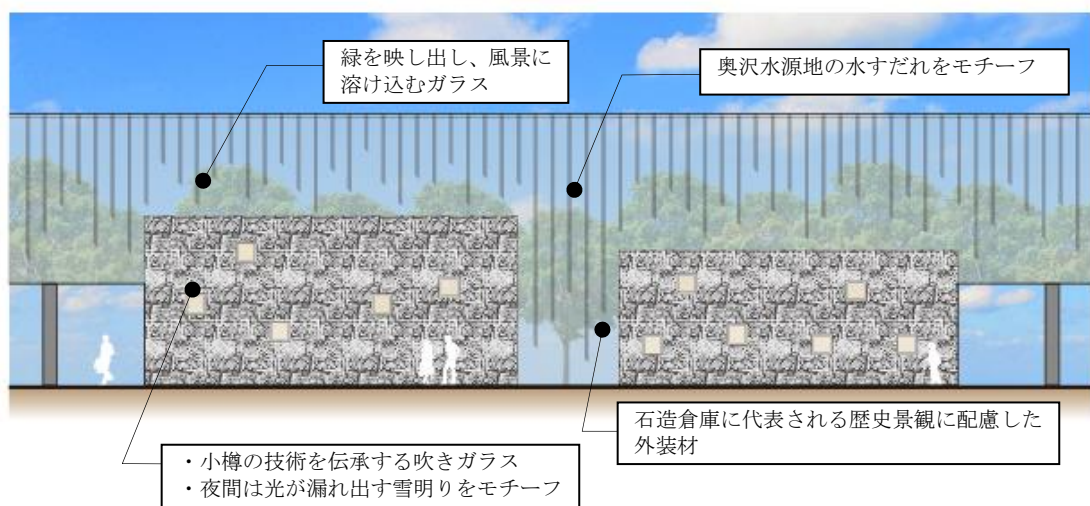
生活
・活動

○地域住民が愛着を持てる居場所としての温もり、心地よさが感じられる空間
 ○ユニバーサルデザインによる、全ての人が利用しやすく、安全で快適な空間

デザイン参考例

コンセプト例

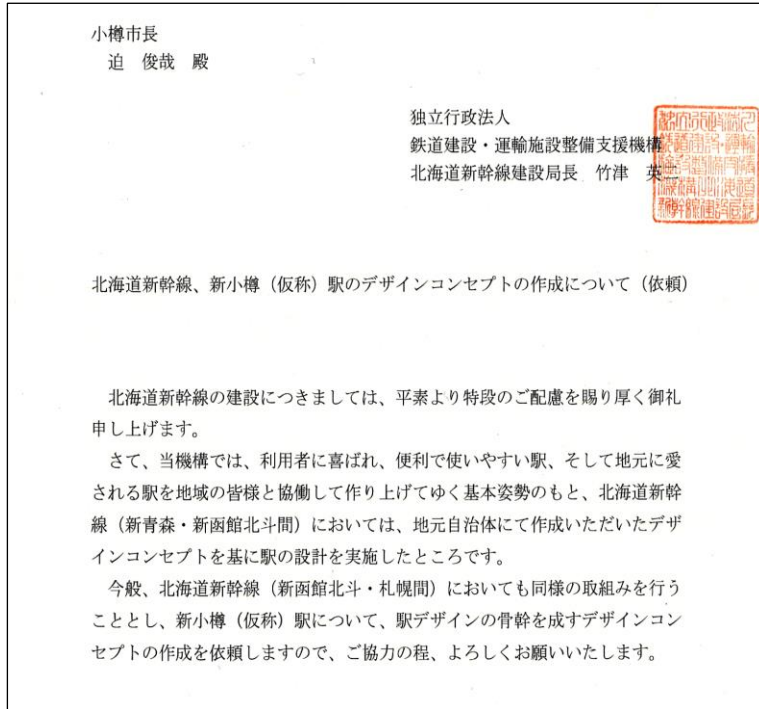
「人と歴史を未来につなぐ架け橋」



新小樽(仮称)駅のデザインコンセプト作成について

1. デザインコンセプトの作成依頼

令和3年5月6日(木) 鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局が、新駅を地域と協働して作り上げるため、駅デザインの骨幹を成すデザインコンセプトの作成を、本市に依頼



▲ 鉄道・運輸機構からの依頼文書



▲ 依頼文書の手交



▲ 新小樽(仮称)駅周辺イメージ図

2. デザイン検討の流れ

「北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画」(平成29年3月策定)における駅舎デザイン方針(「自然豊かな周辺環境と調和した落ち着きを感じられる空間」など)を基に、今年度、「北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会」でデザインコンセプトを検討し、市から機構に要望書として提出する。

その後、機構が要望を基にデザイン素案を3案作成し、市に提案。市で3案から1案を選定し、機構はそれを基に駅の実施設計を行う。

デザイン検討の主な流れ

